

18%、『必要ない』が78%という結果だった。

【考察】

アンケート前は、鎮静剤使用を希望される患者が半数以上いると予想していたが、実際は22%に留まっていた。しかし『必要ない』と回答した中には、鎮静剤を使用した場合終日運転ができなくなるという制約がある為に希望されない患者もいたため、鎮静剤希望者は、実際には22%より多いと考える。

また鎮静剤使用を希望する理由として、検査がきつい・検査時間が長い等の身体的苦痛があげられるだろうと考えていたが、検査が『きつくなかった』と回答した人のうちの約10%、総検査・処置時間が30分以内で終了した人のうちの約15%が鎮静剤使用を希望しており、検査に対する不安などの精神的苦痛も鎮静剤希望の重要な理由であることが推測された。

今回の結果から身体的苦痛だけでなく、精神的苦痛に対してCS時に鎮静剤を使用したいと考えている患者がいることが推測された。鎮静剤使用を希望する患者は全体の22%と少数ではあるが、患者のニーズに応えることで全体の満足度をあげることができると考える。

【結論】

今後はCS検査時に希望者への鎮静剤使用を導入することで、患者の選択肢の幅を広げ、より満足度の高い医療を提供していきたい。

5. 緊急内視鏡検査時の急変に対応するための環境整備 —緊急時必要物品の作成—

独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院 内視鏡センター
内視鏡技師 ○畑中 澄子 岩坪ひろみ 福島 友美
看護師 宮崎あゆみ 近藤絵梨子

【はじめに】

A病院では夜間や休日に緊急内視鏡検査があるとき、消化器内科医師1～2名・内視鏡室看護師1名を呼び出す拘束体制をとっている。緊急内視鏡検査時は偶発症や急変に対応できるよう他部署から1～2名応援にきてもらうが、その時初めて内視鏡室に来る看護師もいる。これまでの経験から、救急カートの整備や急変対応能力を向上させるため年2回急変時シミュレーションを行うなど、内視鏡室としての急変への準備体制を作ってきた。しかし、休日緊急内視鏡検査時に急変した事例を経験した時、応援看護師への準備体制の

不備を感じた。そこで今回分のシミュレーションをこの事例を元に行い、振り返ることで問題点を明らかにし、改善点を話し合った。それにより急変時により迅速に対応するための環境整備を考えたので紹介する。

【方法】

実施者：内視鏡室看護師2名・技師3名

1. 休日緊急内視鏡検査時の急変事例を元にシナリオを作成し、シミュレーションを行う。
2. シミュレーション後、各項目で内容の振り返りを行う。
 - ① 患者の状態観察ポイント
 - ② 急変時応援要請の仕方
 - ③ 応援スタッフへの指示の仕方
 - ④ 患者家族への説明
 - ⑤ 急変対応は迅速かつ適切にできたか
 - ⑥ 救急蘇生方法
3. 振り返りから意見を出し合い、問題点を抽出し、改善点を話し合う。

【結果・考察】

実際の急変事例を元にシミュレーションを行った。その振り返りの中で、「他部署から応援を要請したが、救急カートに入っていない物品がどの場所にあるのか分からず慌てた」という場面があった。内視鏡室看護師は治療が始まると処置の介助につくため、急変した時の対応にあたるのは応援看護師の役割が大きい。そのため応援看護師へ迅速かつ適切な指示ができるよう、物品の場所を統一させておくなど急変への準備体制を整えておく必要がある。そこで、誰が応援に来てでも対応できるように、内視鏡室独自の緊急時必要物品を作成し、『緊急時セット』としてすぐに取り出し使用できるよう新たに配置した。

その後、緊急時にこのセットを出しておいたことで、応援看護師へ対応を円滑に指示することができた。シミュレーションを行い、スタッフ間で意見を出し合うことで、急変時により迅速に対応できるよう環境を整えることができた。

【おわりに】

急変に対して冷静に行動をとることは容易ではない。定期的にシミュレーションを実施し、実際に起こった事例を振り返り問題点を改善していくことで、少しでも迅速で適切な対応ができるよう準備を整えておくことが重要である。